

松本市広報R5-37

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行
2023
7/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 62
なごし おおはらえ

夏越の大祓

夏と冬、年に二度の大祓
身についたけがれを祓い 無病息災を祈る
残り半年も幸あれ!!

(撮影 2023.6.30 四柱神社)

松本手まり時計まつり開催

恒例の第23回松本手まり時計まつり・第45回松本市公民館活動発表会（以下まつり）が行われ多くの入場者でにぎわいました



4年ぶりの本格開催 手まり時計まつり

5月27・28日、まつりは好天に恵まれ、作品展示・ステージ・ワークショップ・映画上映やポートレート撮影などが行われました。

手まり時計の周辺の路上では、もったいない市やこども縁日などもあり、飲食ブースで参加した団体「ワンパーク」は、子どもたちが作ったケーキやコーヒールなどを提供していました。

代表の谷川秀美さんは「食育や地産地消を通じ、子どもたちが主役となって信州や松本を元気にしたい」と話してくれました。

まつりは平成11年から、Mウィング管理組合や周辺の商店街組合など

「手描染色彩花の会」の畑富美子さんは「活動の成果の作品を、たくさんの人に見てもらえるし、活動に興味を持ってくれる方もいる」とのお話でした。

18団体が出演したステージ部門の様子は、一昨年からネットで動画が見られ、時代の要求にも応えています。

コロナが5類に移行して初めての開催となった、活気のあるまつりでした。

「まつりの歩み」

実行委員会によると「委員会を構成する団体に変更があったため、次年度以降、委員会組織がどのような構成になるかは未定だが、まつりの開催に向けて前向きに協議していきたい」とのことでした。

恒例となったまつり、今後とも長く続くと良いですね。

今後の運営のかたち



あ!消えた!マジックショーもありました

による実行委員会形式で、中央公民館とMウィングで実施されています。

手まり時計 ステージ部門 QRコード

市民活動を伝え続けて17年 サポートセンター通信

松本市市民活動サポートセンター【公式チャンネル】はこちら



芳川小学校のスクールファーム



令和5年7月1日 現在
 総世帯数 8,189世帯
 総人口 17,396人
 男 8,686人
 女 8,710人

**芳川地区
地域づくりセンター**
 ☎58-2034

芳川出張所
 ☎58-2034

芳川公民館
 ☎58-2034

芳川福祉ひろば
 ☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、芳川出張所、芳川公民館へのご連絡は同じ番号となります。

緑化推進協議会総会・植栽

「花いっぱい運動発祥の地・松本」芳川の担い手は、緑化推進協議会の皆さん。総会が開かれた6月10日、各町会の担当者や地域づくりセンター職員計10名で、芳川体育館南の花壇にコリウスや日々草など4種類の草花を植えました。公民館にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



芳川小学校伝統のスクールファームでは、3年生が加工用トマト、4年生が筍(ほうき)、5年生がお米づくりにチャレンジしています。今回、4年生は筍草の種を専用の機械を使って、一人ひとりで順番にまきました。5年生は、自分たちが足で泥をこねた田んぼに入つての、待ちに待った田植えとなりました。あいにくの雨に子どもたちは「冷たい」と叫びながらも、カッパを着て、一生懸命植えました。今から収穫の 때가待ち遠しいですね。



地域農業応援企画「農業体験」が始まりました

芳川の魅力の一つが住宅地と農地の調和。一歩進めて、農業体験と地域の皆さんとの交流の場を提供しようという、地域農業応援企画「農業体験」の初回が6月3日、開催されました。



今回のメニューは、J.A.芳川営農の皆さんによる農業の話、トウモロコシと稲の生育状況の観察、そして参加した子どもたちにも大人気だった「農業用トラクターの試乗」と盛りだくさん。芳川米で作った「ごま塩むすび」も堪能しました。

松本市多世代交流型子育て支援施設「あんさんぶる」オープン!!



「こどもプラザ」と「福祉ひろば」の機能を併せ持つ松本市初の施設が7月12日(水)、イオンタウン松本村井2階にオープンしました。



詳しくは次号で!!



7月2日、日曜日、オープン参加方式になった、第46回芳川地区体育大会(よしかわスポーツひろば)が開催されました。勝負よりも親睦を深めようと、野球、バレーボール、卓球、ゲートボール、マレットゴルフ、硬式テニス、ニュースポーツに約200人が参加しました。ソフトボールは、あいにくグラウンドの状態が悪く、中止となりました。南部屋内運動場では、クツブと呼ばれる木片を倒すゲームなどが行われ、木と木がぶつかる心地よい音が場内に響いていました。

よしかわスポーツひろば



芳川の今昔物語



第42話

未舗装の

国道19号線

村田 正幸

その昔.....

国道19号線はまだ未舗装で、車の往来もまばらだった。その脇を流れる川は、村から流れて来ていた。

水の少なかつた芳川では、川の水は大切に扱われた生活用水でもあった。

現在は.....



撮影:1950年代



撮影:2023.7.3 (美芳町信号機附近から南を臨む)

美芳町の信号機の近くで、現在の芳川用水125号は国道の東側で暗渠になっており、歩道になっている。所々にマンホールが設置されている。この周辺は道路が整備されて新しい街並みになり、交通量も増えている。

Vol.7

村井駅舎 ただ今建設中



前号から比べ、カタチになってきました。ホームを跨ぐ渡り廊下もシルエットがわかり、完成予想パースに近づいてきました。安全に工事が進みますように！



たちばなし

5月より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類感染症へ引き下げられ、お祭りやスポーツ大会などが動員制限も無く各地で盛んに開催される事となりました。併せて参加者・見物客共に過去最高となった行事もあるそうです。寄り合いや会合、会食も増え、今後各種行事も活発化され様々な期待がもたれると感じます。

また、国内はもとより海外からの観光客もたくさん松本へ来られ、各観光地も大変な賑わいをみせているようすが、地方都市、業種によつては厳しい現状もあるようです。生産年齢人口の減少に関しては都会より地方都市に影響が出易く、新たな人材の獲得をはじめキャッシュレス決済、外国語対応などの課題もあり、都会のようなスピードで整備していくのは困難です。しかし、そこを逆手に取り、昔ながらの地方の良さを推す地域が魅力的となり、都会とは違った環境や楽しみ方を発信できる気がします。今後の各地方都市に注目です。

視点

⑫松本大学 矢内和博 准教授
もったいないなごぼろ
地域ひろく

0円で産業振興

松本大学の矢内先生(健康栄養学科)の研究室では、長野県の農家や企業と連携し、SDGsに着目した商品開発を行っている。

たとえば、製造過程で不要となる栄養豊富な皮や実を活用し、下伊那郡高森町では「生市田柿クレープ」を、奈川地区では奈川中学校と共同で「そばチュロス」を開発しました。商品の流通には、食品スーパーや高速道路のサービスエリアも提携します。



▲おいしい生市田柿クレープ

スイーツで人を育てる

矢内研究室の学生は商品の販売促進の一環として、実際に売り場に立って宣伝も行うそうです。矢内先生は「人に説明し、理解し、買ってもらうプロセスを学んでほしい」と話します。活動は学生の主体性や行動力にもつながり、卒業後の仕事でも活かされています。



▲現場で販売促進を行う大学生たち

食はつながるツール

商品開発のきっかけの多く

また「地域とのつながりが深まると、学生も地域に根付いてくれる」と語り、大学での地域活動の経験が、自身が暮らす地域の人材育成の機会になることを目指します。

は、大学に地元の農家や企業から話が舞い込んだこと。集まった情報を広く普及させるための手段として、商品はつくられています。
「開発した商品は、あくまで地元の名産をお知らせするツール。地域に利益が起きてくるような仕組みをつくり、自己満足で終わらない、地域に貢献できる仕事になりたい」と矢内先生は語ります。
食でつながった地域と大学は、松本から長野県へ、長野県から全国へ届く魅力ある取り組みをつけています。

矢内先生にインタビュー!



令和5年度 新任公民館職員
公民館長
東部 小澤佐智浩
城川 堀内 隆夫
田内 堀山 三雄
庄内 梶山 三好
鎌田 小嶋 和彦
松南 川上 正彦
四賀 花村 憲二
梓川 西牧 和夫
波田 麻田 仁郎
公民館主事
中野 浩二

中央 福村健太郎
中央 合津 朋実
中央 矢嶋美智子
中央 清水 春生
第三 深澤 佐恵
東部 降旗 一博
城川 小林 弘幸
田川 瀧川 航平
鎌田 高山 美空
島内 保科 圭祐
和野 北澤 智恵美
芳川 藤澤 智恵美

寿丸山 稜雅
松原 木内 史徳
入山 齊川 喜之
四賀 浅沼 喜之
梓川 安藤ひかり
波田 小松 一成
館報全市版編集委員
第一 山内 敦子
第三 上條 恒嗣
東部 降旗 賢一
城北 尾日向智子
中央 澤柳 秀子
安原 大和 靖
城東 浅田 達夫

白板 武居 良和
庄内 大野田 彰孝
鎌田 南雲多榮子
島内 川上 弘
中山 眞次 敬子
島立 上條貴志子
新田 山口 茂
和村 塩原真由美
神田 藤澤 良彦
笹賀 窪田 守
芳川 村田 正幸
寿川 上平 貴明
寿台 江藤 弘子
松原 曾根原 豊

岡田 増沢 忠芳
入山 大澤 深志
里山 渡邊 昇
今井 中村 栄一
内田 小池 睦美
本郷 加藤 京子
四賀 松村 武美
安曇 赤穂 鉄雄
梓川 森 豊樹
波田 古田 太陽
大学生 杉江 夏実
大学生 工藤 夏実
(令和5年7月30日現在)

おこひる
これからの行事イベントがコロナ禍と上手に付き合っている、対策しながら以前のようになれることを期待する
▼5月の連休に御柱大祭に参加し、里曳き・建御柱など、その都度木遣り師の熱い力、パワーやエネルギーを頂いた。翌日足腰が痛く、日頃の運動不足を感じ「週1ウォーク」で鍛えなければと痛感▼宵祭りの奉祝花火、4年振りの子ども神輿や浦安の舞奉納があり、争いの絶えない現在、この祈りを大切に心一杯になった。子どもたちへの伝統行事の傳承とその継続を大切にしたいと思う▼毎年春秋行なわれる薄川堤防の草刈り清掃に参加し、相変わらず丈夫なツル草などを刈り取り堤防一面がさっぱりした。ここは松本マラソンのコースで、選手の皆さんが桜並木や山々と応援の声を背に受け快適に走ることだろう▼今後もコロナ禍の終息を祈りお互いの共助で穏やかな社会を望み、無理なく気兼ねなく行事やイベントなどに参加していきたいと思う。

歴史探訪 探ろう松本 35 本郷地区

自然が豊かな里山と肥沃な扇状地や沢に位置し、松本に水を運ぶ女鳥羽川と古い歴史をもつ浅間温泉が有名です

地区の概要

松本市東北部の女鳥羽川流域にあり83%が山地です。明治22年(1889)に本郷村が誕生し、昭和49年(1974)に松本市に編入合併しました。北部に三才山、稲倉洞原、水汲、中心部に浅間温泉、南部に南浅間、大村、惣社、横田の町会があります。令和5年5月1日現在14410人、6929世帯が居住しています。

歴史ある地区

縄文・弥生時代の遺跡、遺物が発見され、5世紀中頃の桜ヶ丘古墳からは県宝の「金銅製天冠」が出土しています。鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」



松明祭り 浅間温泉に古くから伝わり五穀豊穡と安寧を願い、顔に炭を塗り、練り歩く

本郷地区

「浅間社」の名称が登場し、このころから浅間温泉と呼ばれ始めたと思われる。

江戸時代には湯宿が増え、また松本城主、石川氏が保養のために御殿湯を作らせており、今も続いています。

明治33年(1899)、電燈がつき「浅間温泉は不夜城のごとし」と称されました。

大正時代には養蚕業の隆盛により「松本の奥座敷」としてにぎわい、大正13年(1924)松本駅と浅間温泉を結ぶ路面電車も開業、昭和39年(1964)廃線まで「チンチン電車」の愛称で親しまれました。

スポーツと文化の地

大正15年(1926)に県営野球場や県営運動場が完成。昭和44年(1969)に浅間温泉国際スケートセンターができ、高速リンクとして知られ、国体も開催されました。現在でもセキスイハイム松本スタジアムのほか、か

りがねサッカー場、美鈴湖自転車競技場、浅間温泉庭球公園などが整備され、平成12年(2000)から「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会」が行われています。また、「OMF」が開催されるキッズ文化ホールもあり、スポーツと文化の発信地となっています。

地区活動の発信地

本郷村時代から女性たちの活動が活発で、昭和50年(1975)には、婦人団体が連合して文化祭を開催、現在の本郷地区文化祭につながっています。また、当時始めた保健指導員制度が合併後、「健康づくり推進員」として市全体に展開されました。

来年、松本市との合併50周年を迎えるにあたり、その歩みを記念誌にまとめ、イベントも検討中で、今後の地区の活性化につなげるつもりです。



美しいレンゲツツジの中、疾走

 松本平の野鳥たち



カッコウ (2022.5 松本市南原 写真提供:信州野鳥の会)

ハトくらいの大きさで、「カッコウ、カッコウ」と鳴くおなじみの夏鳥。草原、耕地、牧草地や小さな林がある明るく開けた環境を好む。ヨシキリ類、モズ類など他の鳥の巣に卵を産み育ててもらう。(托卵) 仮親とする鳥たちと共に近年減少が心配されている。(日本では、托卵はカッコウ、ホトトギス、ジュウイチ、ツツドリ)の4種)

 まつもと散歩

当たり前の日常が
何よりいちばんの幸せ
みんなの笑顔も 夏の日差しも



(撮影: 2023.6.19 あがたの森公園)